



# 広報 えびな

編集・発行  
海老名市役所広報広聴課  
〒243-04  
神奈川県海老名市勝瀬175  
☎ (0462) 31・2111

## 平成2年の海老名を

## 振り返る

# 「来年」に秒読み開始

「初の日本人宇宙飛行士誕生」という話題を最後に、平成二年も間もなく暮れようとしています。そこで今回は、海老名の一年間の出来事を写真を中心に振り返ってみました。あなたにとって、今年はどういう年でしたか？



産業まつりで初めて牛に触れた子供もいた

北分署に救急車を配置し出動態勢を強化

4月にオープンした屋内プールは「冬でも夏でも泳げる」と好評

NLPで静寂が破られた

### 1年間の出来事

長いようで短かった一年。今年には次のような出来事がありました。

- 一月：新春恒例の駅伝競走大会、出初式、ジャンボかるた大会を開催。成人式には新成人二千四百五十八人中、千三百人が参加
- 二月：十八日に第三十九回衆議院議員総選挙、本市の投票率は六八・一七％でした。
- 三月：増水期に通行止めになることが多かった相模小橋（通称もぐり橋）の改修工事を開始、五月に工事を終了。
- 四月：海老名運動公園内に屋内プールが完成し、十月には利用者が増え、十万人を突破。また、工場を一カ所に集約することによって、市民文化祭、産業まつりも開催。
- 五月：市内各地で市民レクリエーション大会が、また、温故郷で白作りの道具を展示した特別展が行われました。
- 十一月：消防署北分署に救急車を配置。市内の救急出動件数は二千二百七十一件（11月末現在）でした。市民文化祭、産業まつりも開催。
- 十二月：海老名駅前の中央公園に、七重の塔を模したイルミネーションが点灯されました。

### 1日当たりでは

数字に見る市民の暮らし  
今年、市内では1日当たり2.67人の新生児が生まれ、1.07人の方が亡くなりました。また、1日当たり22.69人が転入し、17.61人が転出、2.69組が結婚しましたが、0.49組が離婚しています。1日1世帯当たりのごみ収集量は2430㌔、同様にし尿収集量は4350ccでした（以上、11月末日現在）。市内での1日当たりの交通事故発生件数は0.29件で、0.32人が死傷しています（以上10月末日現在）。また、火災は9.1日に1件発生しており、救急車は1日当たり6.8回出動しました（以上11月末日現在）。



\*結婚・離婚の数は戸籍人口から調べました















# フォトピックス

員3千人)主催の「顕芸大会」が市総合福祉会館で行われ、二百四十二人が参加した。会員相互の親睦と交流を深めることを目的とした同大会は、昭和五十七年から行われており、司会、進行、音響などはすべて会員が運営。

項目は、踊りや民話、カラオケなどが多かったが、参加者全員がハーモニカの演奏に合わせ、童謡を合唱する一癖もあり、終始なごやかな雰囲気の中で一日を過ごしていた。

## 七重の塔も出現

イルミネーション実施中



光り輝く「相模国分寺」七重の塔

を止めて注目し、中には「メルヘンの世界だね!」と感想をもらす人も。

## 交通事故追放を

駅前で街頭キャンペーン

十一月一日、毎老名駅前口の毎老名中央公園で、年末の飲酒運転・交通事故追放の街頭キャンペーンが行われた。



すばらしい演技に拍手を送る会員たち

## 会員の交流深めた

市福祉会館で演芸大会

十一月二十九日、市老人クラブ連合会(廣善登喜雄会長、会

冬の夜空を彩る「えびなウィンターイルミネーション」の点灯式が十二月一日、毎老名駅前の中央公園で行われた。

この事業は、イルミネーション実行委員会(副会長 志田米男会長、19人で構成)が地域の活性化と市の産業・観光の振興を図ろうと行ったもので今年で二回目。

当日は午後五時に、相州東柏太鼓の連打を会館内の樹木と高さ十五メートルの「七重の塔」が光り輝くと、帰宅途中の人たちが足



心掛けてね交通安全

## 平和を唱える

俳優の米倉氏が記念講演

俳優の米倉嘉年氏(56歳)を講師に迎えた「平和講演会」が、十一月二十七日、市役所で行われた。同講演会は、毎老名市が「平和都市宣言」五周年目を記念して行ったもので、四、五十代の女性を中心に約三百人が参加した。

米倉氏は、戦時中に弟を栄養失調で亡くした体験を含め、約一時間半にわたり平和の尊厳について述べたが、講演後、参加者は改めて真の平和な世の中に

## みなさんの声



投稿はお気軽に 広報広聴課へ

てしまいましたが、しかし、後続車を運転していた男性の方が、すばやく子供を抱きかかえて下さったので、大事故にならずに済みま

## ひとひらお札を

去る十一月十三日の午前十一時四十分ごろ、市文化会館西側の上総相模線踏切を自動車で横断中、二歳の長女が自動車の車から表に転落し

「ご意見を」を寄せたくて、一日ごろ考えていること、思い出に残る出来事、市政への要望提案など、みなさんの声をお気軽に広報広聴課までお寄せください。

中新田三三三 伊藤智多子



米倉氏の話しに聞き入る市民

## 海老名むかしむかし

### 第246話 妖狐と 猛犬勘五郎

行脚僧は渡し場を舟を下りると、船頭が教えてくれた道を台地へ上った。その聚落には豪族の土蔵が立ち並んでいたが、師走の慌ただしさでどこでも相手にしてはくれず、ひと握りの穀類を喜捨する家もなかった。

日の落ちるのを気にしながら村はずれのあばら屋の軒下に立つと、老婆が釜肌なりに固くなって、る栗飯の残りをはきくして作ったすずびを差し出し、あの松の近所に旅人の庚申堂がありまして、高台の大きな木を指差して教えるくれた。

師走の日短かく、衣の裾を不枯らしにあおられながら旅僧が庚申堂にたどり着いたときはほはほすに落ち、大山の肩がもれる余光がわずかに堂の中を明るくしていた。

中に入り、内から門を掛け先ほどの粟のむすびで腹を満たし、竹筒の水を飲むと紙衣ですぼりと体を包んで横になった。

どのくらい時間がたったのだらうか。この旅僧は夢とも現ともない不思議な会話を聞いたが、それは深い井戸からでも湧いてくるような不気味な声だった。

吹き込む夜風に、枕元の木の葉がかきこぼれ音を立てて舞った。その音にはつきりと目が醒めた旅僧は、先ほどの会話を思い返してみたが、そ



ただならぬやりとりである。

夜の明けるのを待つて谷戸川の流れて沿って下り、鳥気のためには川で洗いたいという体が大きくなって気性の激しい使用人のいる名主の家はどこか、と尋ねた。女は白壁の土蔵を指差して、

「名主様の家はあそこです。勘五郎というのはいのこです。」「暖かい血を吸いたいもの」と、笑いながら教えてくれた。門口に立って、

「せひ、主人に会って話したいことがある。」と告げると、早朝の行脚僧の訪問に怪訝な顔をして出てきた名主は、一部始終を聞くか顔から血の気が引いた。

それは、この旅僧の言ったことと語般の実情があまりにもよく一致しているにもかかわらず、誰にも話してない御旗語りまでも聞かされたが、その後は近辺で新仏の墓場が荒らされたり、家畜が被害を受けることはなくなった。

この猛犬の「勘五郎」という名は、さる大名の夕立という相の強い馬が荒れ狂い、馬丁を蹴殺して門外に暴れ出たり取りおさえようとすると、つらつらといはひみちや町の人々を片っ端から喰ひついで、町を駆けまわって狂ったのを、町の御旗語りが、秘蔵だけは手元から隠さないほうが良い」と指示し、その切望により、

名主は守定通り十五日の朝早く、小半ばもある勘五郎を連れて暮詣りに家を出たが、打ち合わせに従って御旗

**海老名むかしむかし**

☎33・3838

電話で海老名の昔ばなしが聞けます。

12月12日～12月25日 第78話 海源寺と日朝上人  
12月26日～1月8日 第79話 地獄大

だが、名主の軍鶏には手が出せない。

「あれは名主が殿様から預かっているのだから、とったら後が大変だ。」

「それよりも恐ろしいのは勘五郎だ。体が大きくて力もあり、気性が激しいからあいつがいては手が出せない。」

「名主が十五日に武州の御旗へお詣りに行くから、その留守を狙えば大丈夫だ。」

「勘五郎は」

「そのとき連れて行くよ。」

「じゃあ、十五日の晩五三つどきにしよう。」

「相手は不思議な力を持つ魔性ゆえ、あるいはしらの動きを予知して行動するかも知れないが、八か裏をかいてみたらどうですか。もし、察知されたらまた次の手を打つことにして、秘蔵だけは手元から隠さないほうが良い」と指示し、その切望により、

名主は守定通り十五日の朝早く、小半ばもある勘五郎を連れて暮詣りに家を出たが、打ち合わせに従って御旗

この名主の家は、地元の旧家として今も残っている。(小島 直司)